

古典享受の実態

—「平家物語」のばあい—

梅 下 敏 之

目 次

- (一) はじめに
 - (二) 対象
 - (三) 教材
 - (四) 授業に対する生徒の感想
 - (五) 古典（平家物語）享受の実態
- 1 調査の方法について
 - 2 調査の内容
 - 3 調査から言えるもの
 - 4 指導の問題点
- (六) おわりに

(一) はじめに

定時制教育に携わるようになって今年で二年目となり、持ち上が

りでクラス担任および授業担任の主力は四年生となった。扱う教材は古典で、進学希望者が約三割近くいるとはいえず、どうも彼らの国語の授業に欲しているものと遊離しているのではなからうか、現代文の方がより適切なのではなからうかとひそかに迷いながら出発した。そして授業をしながら常に頭から離れなかったのは、この二十才前後の青年たちは「この古典から何を求め、どのように受けとっているのでしょうか」ということであった。授業中の話し合いや質問で、およそ見当はずれなことも、私の独断的な判断で思い違いをしているかもしれない。そこで調査によって生徒の古典享受の実態を明らかにしようと試みたのがこのレポートである。

調査の思い立ちは、本年四月から始めた「平家物語」の単元が、ほとんどおわりかけている時であって、最初から調査するつもりで出発してはいないから、調査に際し、授業面の不備が目についたが、それだけに平素の生まの実態が現われているともいえよう。

(一) 対象

- (1) 定時制夜間 普通科四年
 (2) 週二時間 (四十五分授業)

(3) 教育課程 人数 年令は、次の表のとおりである。

教育課程	漢	
	甲	乙
1年	3	2
2年	2	2
3年	2	2
4年	②	2
計	9	4

人数	人	
	男	女
A組	25	23
B組	33	19
C組	48	4
計	106	46

年令	人数	
	18才	19才
18才	70	46
19才	46	22
20才	22	8
21才	8	3
22以上	3	3
不明	3	3

(二) 選択 文学史

○私の担当時間

四月一日現在

四年国語甲二時間が必須で、乙二時間は文学史であるが選択である。全日制普通科に比べると乙の時間が少なく、したがって古典に弱いと言えよう。

人数表からみると男女の比率は三対一である。

年令は大体大学一、二年生にあたる。一年には入る時すでに年をとっているものがある。それだけに、雇間の職業と相俟って人生経験は高校生としては深い方であろう。

(4) 既習 二年生の時他の先生から国語甲(教育図書版 守随憲治編国語二)で「祇園精舎」と「小督の局」を学んでいる。ただし三年編入生、転校生約四十名はこの限りではない。

(5) 進路 約三割近くが大学に進学を希望しており今のところC組に数が多い。大部分のものは現在の職を卒業しても続ける予定である。定時制としては進学希望者が多い方であり、それだけに学業に熱心な生徒が多いといえるかもしれない。

(三) 教材

- (1) テキスト「古典文学」中央図書版 遠藤嘉基編 一五四頁、単元Ⅱ 歴史と文学 のうち

平家物語

殿上の闇討 七一頁〜七六頁

妓 王 七六頁〜八五頁

福原落ち 八五頁〜八八頁

全冊一五四頁のうち十八頁を占める。

(2) 時間 取り扱った期間は四月の新学期から五月末まで。時間の配当は 十時間。

殿上の闇討(導入を含む) 三時間

妓 王 四時間

福原落ち (調査を含む) 三時間

四十五分授業と、ロングホームルームの時間に月曜日がその上五分さかれ、また学期初めの諸行事で思うように進まず五月末までかかった。

(四) 授業に対する生徒の感想

紙数の制約で「実践と反省」を省略し、生徒の授業に対する感想をのせておく。

感想を書かせた方法については後述「古典享受の実態」のところ
 で触れる。

対象はA、B組、八十五名である。

(1) おもしろさは
おもしろい 16

普通 4

おもしろくない 4

(2) わかりやすさは
わかりやすい 8

普通 4

わかりにくい 2

(3) 進みは
早すぎる 5

普通 14

遅い 6

(4) その他(書いてください)

○ 文法をくわしく。 3

○ 授業と授業の間が長いので毎時復習をしてほしい。 2

○ 人の生き方考え方をもっとくわしく。 2

○ だいたいよい。 3

○ 討論したところがよくわかる。 2

○ 古文は興味なし。 2

次の項目は一人ずつ。

イ 先生の表現に不満。

ロ 絵に書け。

ハ もっと心理追求をしてほしい。

ニ まとめて板書をしてほしい。

ホ 多角的説明がのぞましい。

へ 背景を説明せよ。

ト 平凡すぎる。

チ 主観がは入りすぎる。

リ 声が大きすぎる。

× 予習させて発表させよ。

ル 自由に発表できてよい。

ヲ 討論が楽しい。

ワ 今のまゝでよい。

だいたい「おもしろい」とか「わかる」というものが多かったが、後述の実態調査の末尾に付けて調査したためか、記入者が少なかつたのが惜しまれる。

(四) 古典(平家物語)享受の実態

1 調査の方法について

2 調査の内容

3 調査から言えるもの

1 調査の方法について

イ、一次調査。C組を使用した。例をあげると

平家物語は――

該当する所に○印をつけ、下に理由を書け。

おもしろかった。

普通であった。

おもしろくなかった。

ロ、二次調査。A、B組を使用し、理由欄はC組の調査から出た

ものをのせた。したがって、本調査の理由欄だけは二次調査の結果である。

例、平家物語は (該当する所に○印をつけよ。)

おもしろかった。

普通であった。

おもしろくなかった。

理由

おもしろかった理由

(イ) 登場人物の生き方に興味関心があった。

(ロ) 口調がよいなど表現にひかれた

……以下略

(注) 前述の「授業に対する感想」は二次調査の末尾につ

け加えたものである。

(注) 無記名とする。

ハ 調査人数

計	91	42	133	152
C組	44	4	48	52
B組	27	20	47	52
A組	20	18	38	48
男女計				
在籍数				

A組に欠席者が多いが、これも夜間定時制の実態である。

2 調査の内容

A 興味 関心 印象

(1) 平家物語はおもしろかったか。

組		A組	B組	C組	計
項目	おもしろかった	15 (9)	29 (14)	28 (3)	72 (23)
普通であった		20 (9)	15 (5)	16 (1)	51 (15)
おもしろくなかった		3 (0)	2	3	8 (0)
未記入		0	1 (1)	1	2 (1)
合計		38 (18)	47 (20)	48 (4)	133 (42)

() 内は女子の数

○理由 (理由の統計はA・B組のみ。以下同じ。)

おもしろかった理由

イ 登場人物の生き方に興味関心があった。

ロ 口調がよいなど表現にひかれた。

ハ 仏教的無常観や末法思想がうかがわれて。

ニ 社会の状況がわかるから。

ホ 筋がおもしろかった。

(以下略)

6	4	10	11	16	男
2	6	11	11	22	女
8	10	21	22	38	計

おもしろくなかった理由

へ	古文になれていないから。	9	6	15
ト	無常観がわからなかったから。	4	2	6
チ	意味がよくわからなかったから。	3	1	4
リ	遅刻欠席が多かったから。	3	0	3

(以下略)

「おもしろかった」が五十四%おり、男女に分けてみると女子が六十四%で高い。この調査で未記入がかなりあるのは、無記名、無関心、質問がよくわからないなどが原因と考えられる。理由をみると「おもしろかった」の方では、男女とも「登場人物の生き方に興味関心があった。」が多い。「口調がよいなど表現にひかれた。」が二位で、「仏教的無常観や末法思想がうかがわれて」というのが二十一名で三位となっている。私の予想では「社会の状況がわかるから。」とか「筋がおもしろかった。」というのがかなりあろうと思っていたがはずれた。人生の生き方に関心が集まっていることは注目される。「おもしろくなかった」理由としては、予想どおり「古文になれていないから。」が一位である。「遅刻欠席が多かったから」は定時制の特色であるが、案外理由にあげられていないのはどうしたことか。

(2) 次の三つのうちの順に興味なり関心をもったか。

項目	順位		
	1 位	2 位	3 位
殿上の闊討	16 (2)	30 (8)	32 (21)
妓王	72 (2)	28 (8)	13 (2)
福原落ち	40 (2)	43 (5)	26 (17)
未記入	3 (1)	32 (10)	71 (11)

多いのは1位だけ書いていないという
 入位は順位がつけられないという
 記3位は
 未2位を
 位2位を
 3位を
 2位を
 のものを

○理由(該当するものに○印)

イ	亡びゆくもののがあわ	36	25	61	男
レ	れが身にしてみた。	16	15	31	女
ロ	女性の考え方に関心	17	13	30	計
ハ	興味もてた。	16	13	30	
ニ	忠盛の態度に興味も	17	13	30	
ホ	もてた。	17	13	30	
ヘ	人物の心理描写がす	9	10	19	
ト	ぐれている。	9	10	19	
チ	人物の心理描写がす	9	10	19	
リ	無常を感じて出家す	7	7	14	
ニ	るところ。	7	7	14	
ト	文の口調がよいから。	7	7	14	
ヘ	人間らしく悩んでい	6	5	11	
チ	るから。	6	5	11	
リ	文が美しかったから。	4	4	8	
ト	人物の性格がおもしろ	4	4	8	
リ	かった。	4	4	8	
ト	人物の性格がおもしろ	4	4	8	
リ	かった。	4	4	8	

その他
 登場人物の生き方に納得がいかない。
 女性を人間として扱っていないことに
 ぶんが。 (以下略)

「妓王」が一位で、男女の大部分から興味をもたれた。特に女子に多い。理由をみても「亡びゆくもののがあわれが身にしてみた。」が多いが、これは「妓王」や「福原落ち」に当たるものである。「殿上の闊討」に女子の数が少ないのも注目される。理由から言えることは、ほとんど、人の生き方に関心が集まっていることである。

(3) どの人物に心をひかれたか。順をつけて二人あげよ。

順位 人名	一位	二位
	妓王	60(20)
忠盛	31(6)	13(3)
仏	21(8)	29(5)
宗盛	7(3)	14(5)
清盛	5(2)	7(1)
家貞	1	1
その他		3
未記入	9(2)	33(7)

(注) 未記入者がつ答む。中に順位がと含えられた者を

○理由

△妓王△イ 寛容な態度に感心。

ロ 人間としてよく出来た人だ。

ハ 人のはかなさなどよく考えて知っているから。

ニ あまりに人間的ななやみをもっているので。

ホ 出家までしなければならぬ運命に同情して。

ヘ 白拍子という身分に同情して。(以下略)

△忠盛▽

イ 計算づくめの生き方世渡りのうまさ。

ロ ず太い神経と男らしい態度。

ハ 自重するところに男の苦悩が見られる。

ニ 成功するために自分を押えるところ。

ホ 院に対しても自分の意見をいうところ。

1	3	11	12	12	男	2	3	5	11	11	10	男
6	5	1	5	10	女	1	8	8	6	8	13	女
7	8	12	17	22	計	3	11	13	17	19	23	計

△仏▽

イ 全盛の時出家を思い立つ心境。

ロ 自分の強い意志で積極的に生きていくから。

ハ 若くして人の世のはかなさを知ったから。

ニ 人生とは何かを暗示しているようだ。

ホ ドライな生き方。(以下略)

△宗盛▽

イ 敗北を知りつつも最後まで頑張ろうとする心境。

ロ 敗走の中で総大将としての態度。(以下略)

妓王が一位、忠盛が二位、仏が三位の順となった。妓王は全体の四十九%を占め、理由として、妓王が生まの人間として描かれているからと言えらる。意外だったのは、忠盛が二位のことだ。忠盛の計算づくめのず太い生き方に私は少なからず否定的な批判を下していたのに。忠盛に比して仏は作者の平家物語のテーマが集約化されている人物として、その人間像の追求に授業の重点をおいた。仏は若くして清盛の寵愛を受け、高校生と同じ年代をもって世のはかなさを悟って出家するという作者の理想的な人物設定なのだ。が、それは現代の青年には、心ひかれる対象ではなかった。あまりに理想的であったためであろう。女子は、それでも、仏にひかれた理由として、「ハ

若くして人の世のはかなさを知ったから」、に票が集まっている。

(4) 他のところを読みたいと思いませんか。

「思う」が七十七%もある。理由では、「イ昔の人の人生観や世界観が知りたいので」、が三十九%もある。私は「口源平の盛衰など歴史的なことが知りたいので」とか、「ハ筋を立てて知りたいので」、が多いであろうと思っていた。

数		人数
項目		
思	う	105(37)
思	わない	26(4)
未	記入	2

○理由

イ 昔の人の人生観や世界観などが知りたいので。

ロ 源平の盛衰など歴史的なことが知りたいので。

ハ 筋を立てて知りたいので。

ニ 昔の生活状態が知りたいので。

思わない理由

ホ おもしろくもないので。

へ だいたい筋を知っている。

項目	男	女	計
イ	17	24	41
ロ	11	12	23
ハ	8	9	17
ニ	3	2	5
ホ	8	1	9
へ	1	2	3

(以下略)

その他

理解できないので。
美しい文を読みたいので。

(以下略)

(5) この作品を読んで考えさせられましたか。

「考えさせられた」以上が八十五%もある。理由をみるとほとんど人間の生き方について考えさせられたと言えよう。男女を比べてみると、女子が「出家ということ」を十名もあげているのに、男子は一名もあげていない。女子は著者の意図に引き入れられやすいのか、出家した妓王や仏が女性であったからか。

項目	人数
考えさせられた	28(12)
考えさせられた	81(24)
考えさせられた	20(3)
考えなかった	4(2)
未記入	

○理由

△考えさせられた▽

イ 人のほかない運命に。

ロ 盛者必衰で考えさせられた。

ハ 人間の生き方、特に十代の生き方に。

ニ 出家ということに。

ホ 時代をこえた生き方が示されている。

項目	男	女	計
イ	23	14	37
ロ	12	10	22
ハ	5	13	18
ニ	0	10	10
ホ	6	2	8

へ 恩返しなど武士の考え方。
 ト 先の見通しをもつ生き方。
 チ 寛大な人間について。

△考えさせられなかったV
 リ 出家の気持ちなどどうもびたりとこない。14 2 16
 (以下略)

その他
 自分の人生観と違うので考えなかった。
 女性の地位について考えた。

B 表現

(1) 表現だけ問題にして、どの順によい文だと思いましたが。
 興味、関心の調査では「妓王」が一位であったが「福原落ち」が
 ここでは一位となる。平家の亡びいく姿を七五調や対句表現で流暢
 に、しかも同情と哀感を漂わせながら書かれた「福原落ち」は、生
 徒によい文だと思わせている。一位にした理由もそこがあげられて
 いる。内容と表現はそれぞれ別の観点からとらえるようになってい
 ると言えよう。

項目	順位		
	1位	2位	3位
殿上の鬮討	4	32	73
妓王	35	60	24
福原落ち	86	18	14
未記入	8	23	22

(注) 未記入に順位がつけられずと答えたものを含む。

○理由(一位にした理由)

イ 哀感が文全体に流れている。
 ロ 七五調対句など口調がいい。
 ハ 心理描写など適切。
 ニ 漢語が使ってあって力強い。
 ホ 平易でわかりやすい。
 へ 平安朝の繊細な書きぶり。
 ト 会話が生きている。
 チ テンボが早くてよい。
 リ 勇しい。

(2) 平家物語全体の文から、表現は気に入りましたか。

生徒にはわりあい抵抗なしに受け入れられている。しかしテキス
 トに出ている部分は漢語、仏教語などであまり煩雑ではないところ
 であるから一概に言えないであろう。「そんなこと思わない。」は
 まだ意識がないものと思われる。

項目	人数
気に入った	70 (26)
気に入らない	2 (0)
そんなこと思わない	58 (14)
未記入	3 (1)

C 理解

(1) この平家物語を学習して理解できましたか。

この項目は私の授業の反省でもある。「よく理解できた」は十六%「よくわからなかった」が十六%であった。理由をみると「心理追求ができたから」が一位である。授業の指導目標をそれに置いていたからその反応でもある。「ロ社会状況や歴史的事実がわかったから」「ハ筋がおもしろかったから」にもっと理由の数が集まるかと思っていた。理解できなかった理由として「イ古文になれないため」が一位である。定時制では時間的に無理もない点である。また「ル遅刻欠席がちだったから」は実際には数は多いものと思われる。注意すべきは、作者のねらいであった「ホ無常観や末法思想が具体的にわかって」という者が少なかったことである。筆力の不足か高校生には年令的に理解困難なのか。私に言えることは教授者に観念的にしかわかっていなかったことである。

○理由

△理解できたV

項目	人数
よく理解できた	21(7)
普通	9(3)
よくわからなかった	17(2)
未記入	2(1)

イ 心理追求ができたから。	10	15	25	男
ロ 社会状況や歴史的事実がわかったから。	12	10	22	女
ハ 筋がおもしろかったから。	7	7	14	計
ニ 戦記物にはもともと興味をもっていたので。	4	3	7	
ホ 末法思想や無常観が具体的にわかって。	5	2	7	
ヘ 平易な文だから。	3	1	4	
ト 歴史で知っているから。	4	2	6	
△理解できなかったV				

チ 古文になれないため。 13
 リ じっくり勉強しなかったから。 7
 ヌ 文法がひっかかって。 4
 ル 遅刻欠席がちだったから。 4
 (2)、理解できた順に番身をつけなさい。
 一位「福原落ち」二位「妓王」三位「殿上の闇討」であった。興味関心度から二位であった「福原落ち」が一位になったのは頁数が少ないこと(妓王の十頁に対し福原落ちの四頁)や「福原落ち」を最後に学習して文に慣れていたためと考えられる。「殿上の闇討」は最初に学習した。理由をみると「イ女性の生き方がわかったから」に女子が多い。「妓王」の由理であらう。

○理由

項目	順位	1位	2位	3位
殿上の闇討		30(3)	39(13)	44(19)
妓王		48(7)	39(6)	33(5)
福原落ち		49(10)	33(5)	34(11)
未記入		4(1)	22(6)	22(6)

イ 女性の生き方がわかった。	3	6	3	男
ロ やさしいから。	3	10	14	女
ハ 平家の衰亡がわかったから。	3	8	16	計
ニ 無常観がわかったから。	7	2	9	
ホ 授業をよくうけたから。	1	2	3	
ヘ 武士や貴族の態度がわかったから。	2	3	5	

(3) 読んでいて困難な点があったら、いくつでもあげてください。質問に不適切な面があつて、漠然たるものが寄せられた。たとえば古語をわけてその中に助動詞、助詞を入れるべきであった。これとみると古語が多いが、一次調査をしたC組では漢語が一位であった。C組は進学希望者の多い組である。

項目	人数
古語	54
漢語	42
助動詞	36
助詞	20
敬語	13
仏教語	3
主語の省略	26

(4) 文学としてすぐれていると思いませんか。

六十八%がすぐれていると思うであり、理由は「イ心理描写がすぐれている」となっている。その他の理由からみても高校生の要求にじゅうぶんこたえうる作品だといえよう。

○理由

△すぐれている▽

項目	人数
大変すぐれていると思う	21(10)
すぐれていると思う	68(25)
普通と思う	15(2)
すぐれていないと思う	1(0)
わからない	25(4)
未記入	3

- イ 心理描写がすぐれている。 24 計
 - ロ 無常観など作者のいわんとしていることが巧みに描かれている。 22
 - ハ 説者を物語の中に誘いこむ。性格などをじょうずに書きわけている。 20
 - ホ 当時の社会や風俗などがよくわかる。 10
 - ヘ 読んだあと充実感があった。表現がすばらしいから。 7
 - ト 史実と作者の主観がよくマッチしている。 7
- △すぐれていない・わからない▽

- リ 文学とは何かよくわからない。 6
- × 文学に興味なし。 3
- ル 人物の心理に納得いかず。 2

(5)、疑問点があったら書いてください。
「イ仏の出家の理由」「ロ無常観」「ハ院の判決」などみな教室で討議の題にしたものだ。「十代で出家する心境はどんな条件下でもわからない」という生徒もいた。無常観や仏教思想は深遠でどこまでいっても疑問は残るであろう。

- イ 仏の出家の理由が判然としない。 7 計
 - ロ 無常観や仏教思想がはっきりわからない。 3
 - ハ 院の判決が納得できない。 2
- (以下略)

(6) 心に残ったことばを次に書きなさい。
概して短歌や、七五調の口調のよい文があがった。平家物語のもつ深い哀調がよく表われているところである。

- イ もえいづるも枯るるも同じ野への草いづれか秋にあはではつべき。 (妓王が清盛の邸を出る時仏におくった歌) 30 計
 - ロ ・一樹の陰に宿りあひ、同じ流れを掬ぶだに別れは悲しき習ひぞかし。 (妓王が清盛の邸を出るとき) 10
 - ・一樹の陰に宿るも先世の契り浅からず。 同
 - ・流れを掬ぶも、他生の縁は深し。 同
- (「福原落ち」で宗盛の演説)

ハ 娑婆の榮華は夢の夢、楽しみ榮えて何かせむ。

17

(仏のことは)

ニ 平家都を落ちてはてぬ。(「福原落ち」の最後の文)

4

ホ 深更空夜しすかにして旅寝の床の草枕、露も涙に
争ひて、ただもののみぞ悲しき。

3

(福原での夜)

(以下略)

(7) 平家物語を読んで一番強く感じたことは何ですか。

大多数のものが感じた「イ盛者必衰」も、「ロ人間のはかなさ」と同じである。とすると平家物語の主題はじゅうぶん高校生に読みとられていることになる。無常観などという理屈でなしに実感としてとらえているのである。

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	男	女	計
イ	盛者必衰。								13	7	20
ロ	人間のはかなさ。								12	8	20
ハ	女性の地位の低さ。								5	4	9
ニ	人間の生き方。								3	5	8
ホ	出世するため見せた忠盛や清盛の 非人間性。								1	6	7
ヘ	社会生活や風俗。								3	1	4
ト	滅亡を前に武士の忠誠心。								2	3	5
チ	仏の出家。								2	6	8

(以下略)

3 調査から言えるもの

以上各項目にわたって、調査内容をみてきたが、調査前の「平家物語から何を求め、どのように受けとっているのであろうか」という問題に、どうやら、明解な答が出たようである。

「平家物語はおもしろかった」(五十四%)の理由一位は「登場人物の生き方に興味関心があった」であり、「他のところを読みたいと思いますか。」の質問に「思う」が七十七%もあり、その理由として「昔の人の人生観や世界観などが知りたいので」(三十九%)が一位である。他の箇所を引用するまでもなくこの二つで人生に役立つ具体的な生き方や、昔の人の人生観や世界観を知りたいと思つて古典を読んでいることはわかろう。理想的な人物「仏」よりも生きることに苦しむ「妓王」や「忠盛」の方により心がひかれるのである。第二の人生の出発といわれる青年期(高校生時代)に、彼等が求めるものは「生き方」であった。調査後、強制はしないが感想文が書けたら出してほしいと溟然と頼んでおいたのにこたえて出してくれたK(女)は「以上中世の束縛された社会、限られた自由の中に生きたこれらの女性を通して、私の生き方というものを再度考えてみたのである。」と、どのように受けとめ、発展させたかを述べている。これらは定時制生徒の特殊性かもしれない。ただど年令的にみて高校の後期になると、思想的なもの、哲学的なもの(しかも具体的な)を求める傾向があるといえるような気がする。古典教育も、人間教育以外の何ものでもないのである。

「平家物語」への共鳴として、亡びいくものへの同情がみられた。また、文のリズムの美しさや、口調のよさをじゅうぶん生徒は汲みとっていた。

4 指導の問題点

生徒の求めている「人間の生き方」にこたえるため、教師も絶えず「人生の意義」に思いをはせ、宗教、哲学、歴史、社会等に幅広い教養を積んでいかなければならない。また教材も生徒の要求にこたえうる

学部国語教育研究集会において発表したものに補筆したものです。

(広島県立国泰寺高等学校教諭)

ような内容の深いものを「人間の生き方」に触れたようなものを与えてやる必要がある。「平家物語」はそういう意味で教材として適当であろう。読んでいく上の困難点として言語的抵抗があると多くの者が言っていたことや「しかし正しく理解するためには、やはり文法をはっきり知らなければいけないと思いました。」F(女)の感想文のとおり、基礎的な学習をみっちりやらなければならぬと思う。学習者の全部が次のように言えるようにしたいものだ。「以上、私の大体の感想です。やはり古文は現代文にない良さがあるとしみじみ思いました。第一威厳があるし、読めば読む程、かみしめればかみしめる程味が出て素晴らしいと思いました。」F(女)

(6) おわりに

「古典享受の実態」という仰々しい題を掲げながら、内容は浅薄に終わったようだ。まずアンケートの質問事項が吟味精選されておらず、一次調査の活かしがた、二次調査結果の分析がたりないようである。資料だけで口頭発表した時はあまり感じなかったが、この原稿を書くに当って、レポートの書き方まで知らないことに気づき、諸雑誌を読み直すなど随分手間どった。これは「平家物語」のばあいであるが、他の古典のばあいも、他学年のばあいも調べてみたいと思う。いつかは他の人に役立つレポートが書けるかもしれない。非力な国語教育実践者のなしうる唯一のアルバイトと思っている。

付記 拙稿は野地潤家先生の御教示を仰ぎ同僚伊東武雄先生の細部にわたっての助言をいただいていたもので、深く感謝の意を表します。またこれは、先に(昭和三十七年八月五日)広島大学教育